

# 彦根市 在宅介護実態調査（概要版）

## 1 調査の概要

### （1）調査の目的

要介護者の在宅生活や介護者の就労継続に有効な介護サービスを検討することを目的としている。

### （2）調査期間と調査方法

調査期間：令和7年12月17日から令和8年1月9日まで

調査方法：郵送による配布・回収

### （3）調査対象及び帳票の配布数と回収数

令和7年9月末日現在、彦根市内に居住する在宅生活の要介護認定者のうち、更新申請・区分変更申請に伴う認定調査を受ける（受けた）者で要介護1～5の方

配布数	回収数	有効回答数	有効回収率
1,000件	609件 (前回：631件)	599件 (前回：618件)	59.9% (前回：62.9%)

## 介護保険事業計画の策定に向けた検討

### 1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

#### （1）集計・分析の狙い

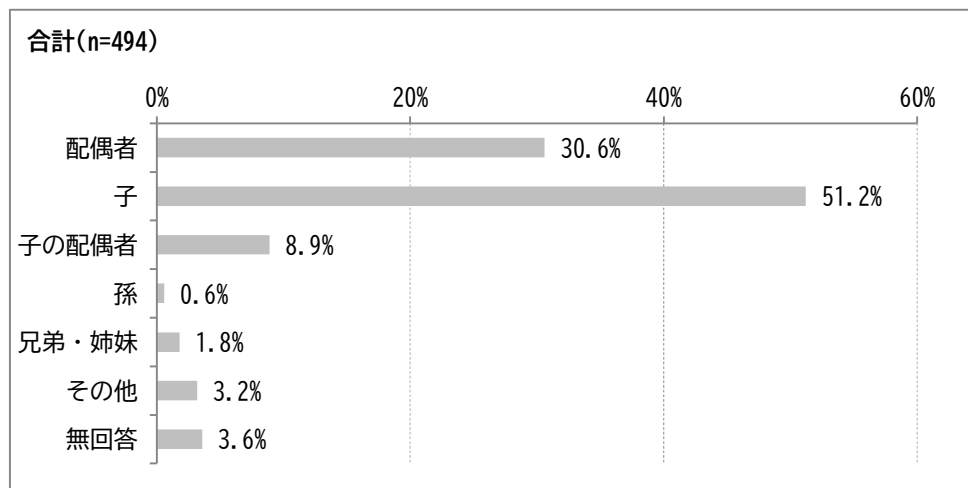
- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができるのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

## 2. 調査の結果

### 【主な介護者】

- 主な介護者は子と配偶者で 81.8%

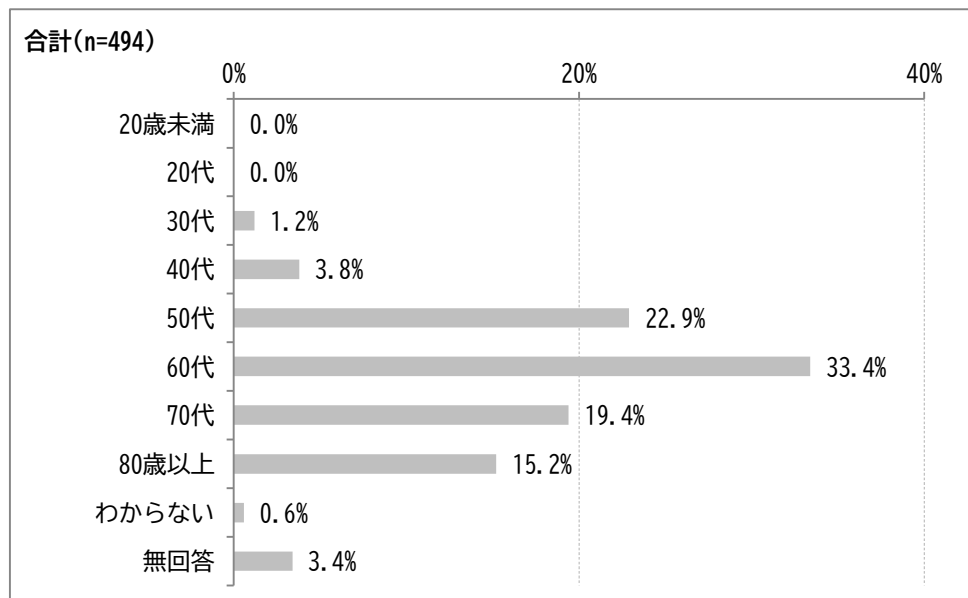
主な介護者について、「子」が 51.2% で最も高く、次いで「配偶者」が 30.6% となっています。



### 【主な介護者の年齢】

- 主な介護者の年齢は 60 代以上が 68.0%

主な介護者について、「60 代」が 33.4% で最も高く、次いで「50 代」が 22.9% となっています。



(1) 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

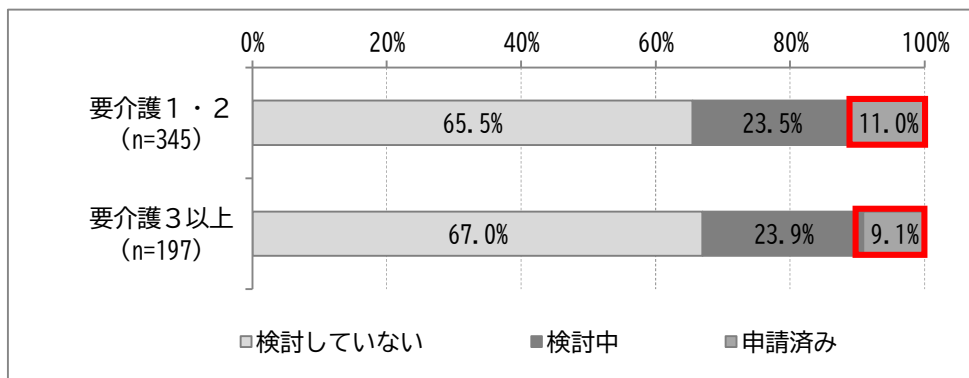
【施設等検討の状況】

- 「検討していない」は要介護度に関わらず、65.0%以上
- 「申請済み」は単身世帯が15.6%と、他の世帯と比較して高い

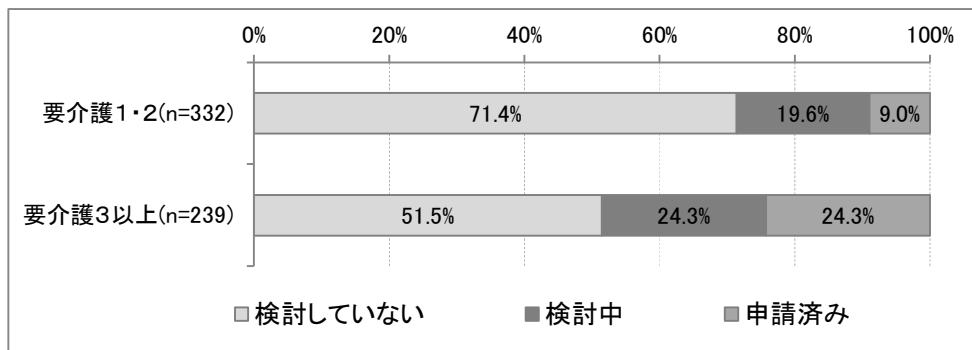
要介護度別の「施設等検討の状況」をみると、「申請済み」の割合は要介護1・2で11.0%、要介護3以上で9.1%となっています。

前回と比較すると、要介護3以上において「申請済み」の割合が15.2ポイント減少しています。

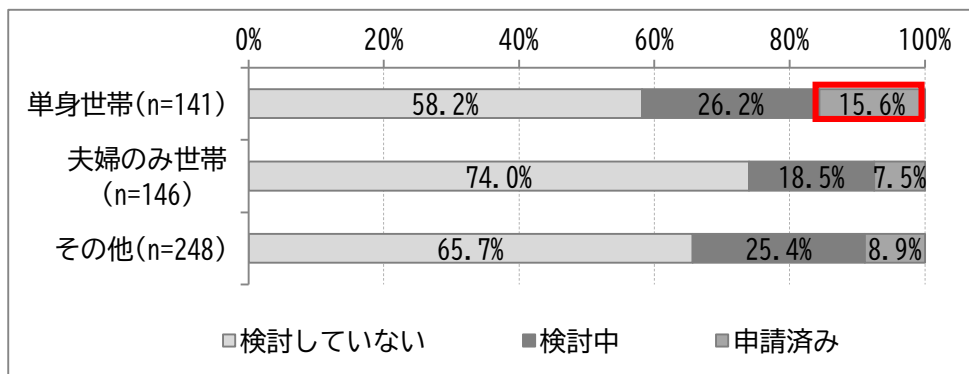
図表1-2 要介護度別・施設等検討の状況



前回調査



図表1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



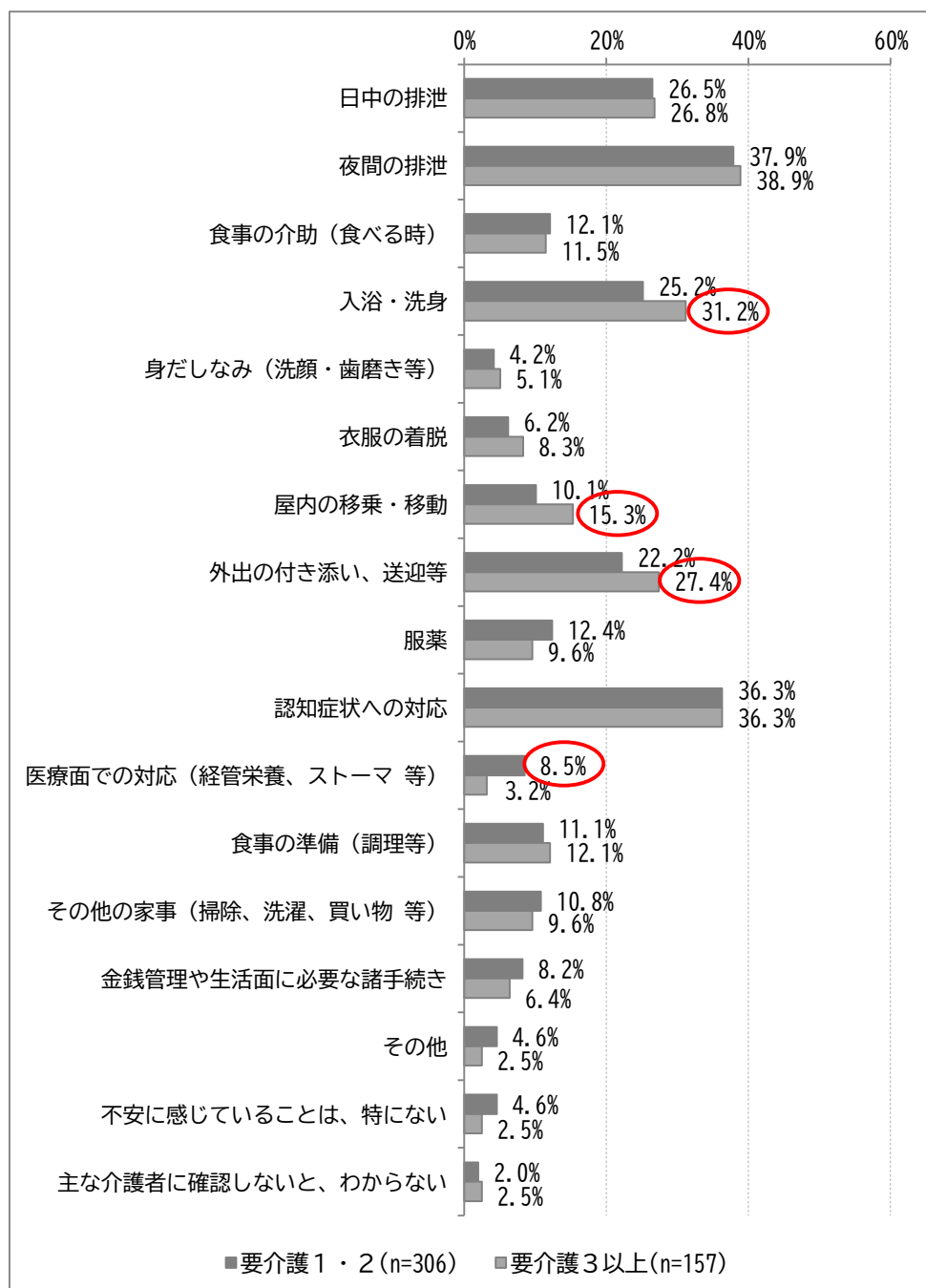
### 【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

- 要介護度によって不安に感じる介護に差がある。要介護1・2で高いが、要介護3以上で低いものは「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）、要介護1・2で低いが、要介護3以上で高いものは「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」

「要介護1・2」では「夜間の排泄」が37.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.3%、「日中の排泄」が26.5%となっています。

「要介護3以上」では「夜間の排泄」が38.9%と最も割合が高く、次いで「認知症状への対応」が36.3%、「入浴・洗身」が31.2%となっています。

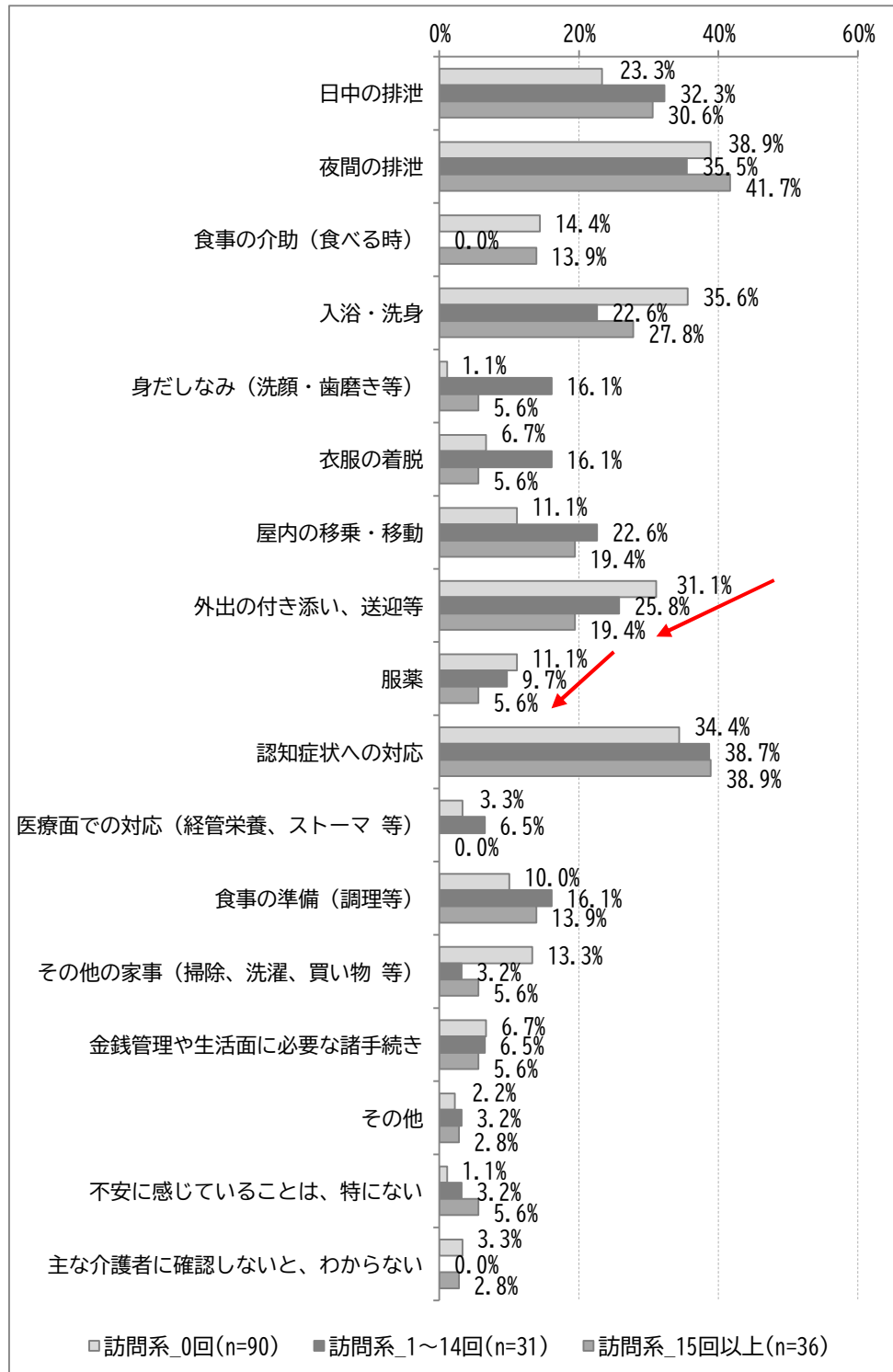
図表1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

- 訪問回数の増加に伴い、介護者の「外出の付き添い、送迎等」「服薬」の不安が軽減

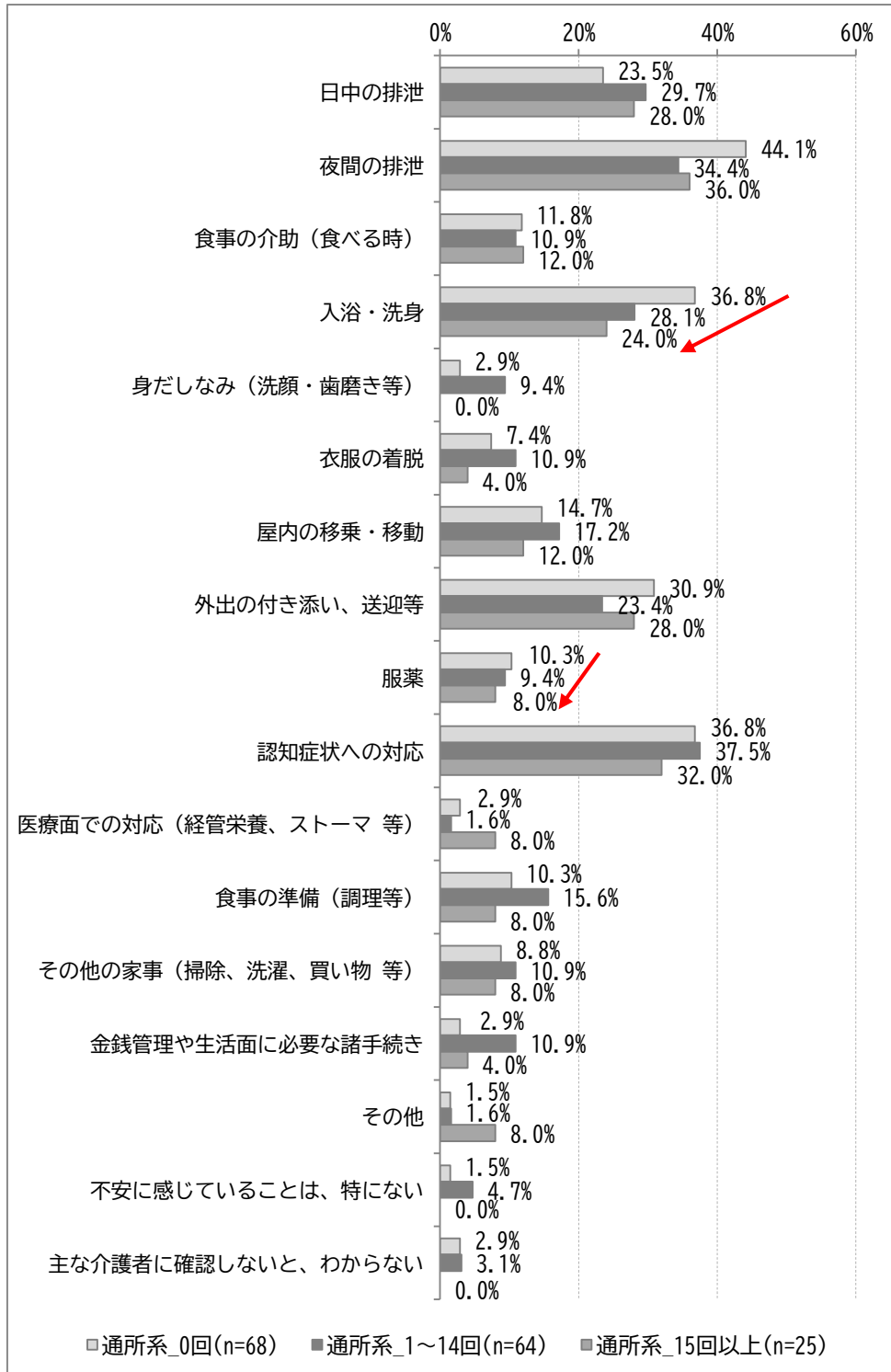
図表1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）】

- 通所回数の増加に伴い、介護者の「入浴・洗身」「服薬」の不安が軽減

図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



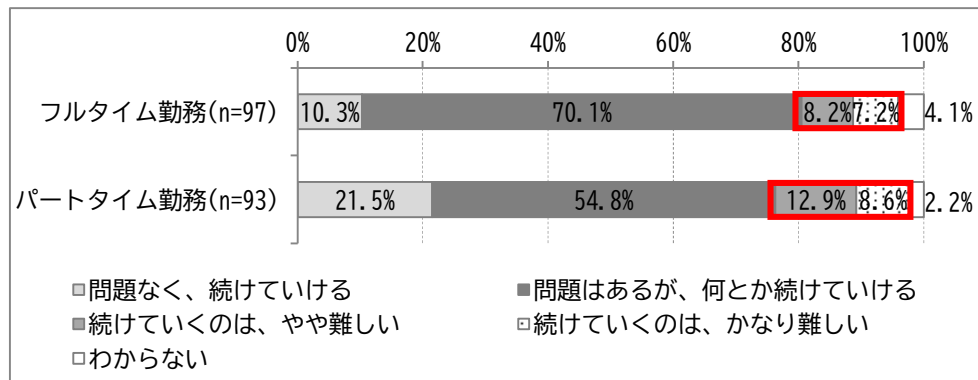
(2) 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

【就労状況別・就労継続見込み】

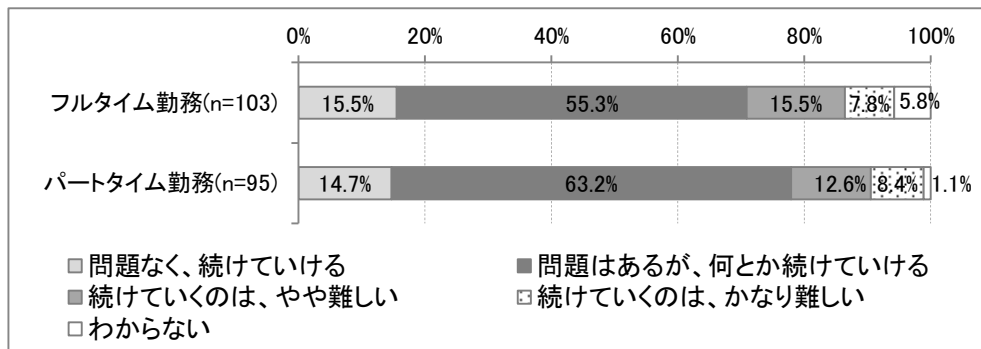
- 「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“難しい人”はフルタイム勤務で15.4%、パートタイム勤務で21.5%

前回と比較すると、フルタイム勤務において「問題はあるが、何とか続けていける」の割合が14.8ポイント増加しています。

図表2-9 就労状況別・就労継続見込み



前回調査

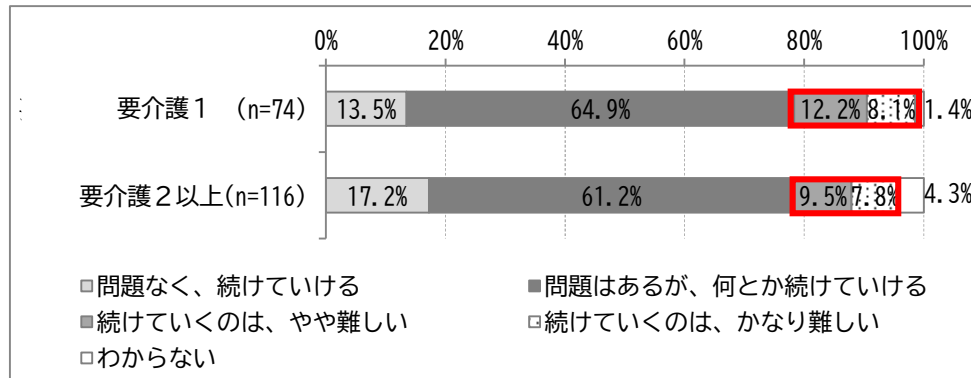


【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）】

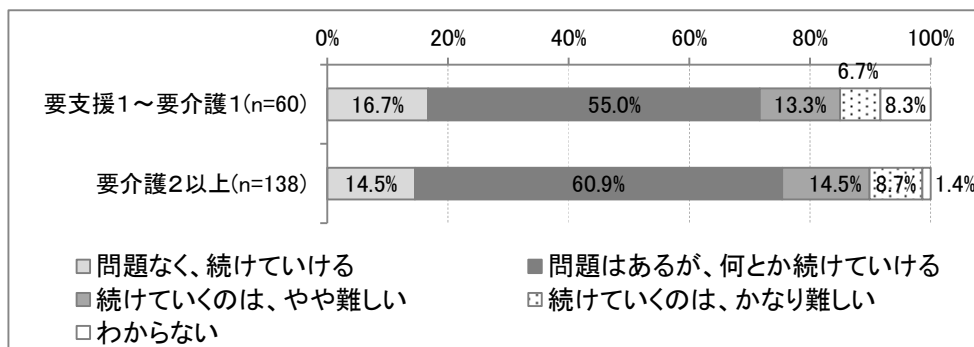
- 「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた“難しい人”は要介護1で20.3%、要介護2以上で17.3%

前回と比較すると、要介護2以上において“難しい人”の割合が5.9ポイント減少しています。

図表2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



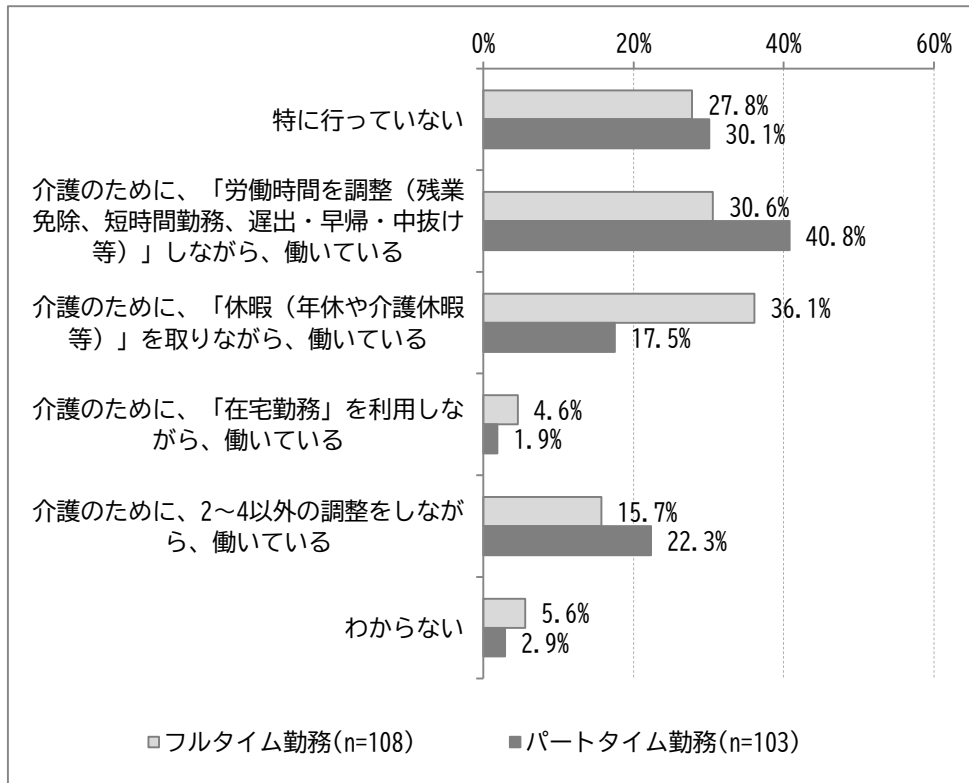
前回調査



【介護のための働き方の調整】

- 「フルタイム勤務」で最も高いものは「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」で 36.1%
- 「パートタイム勤務」で最も高いものは「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」で 40.8%

図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整

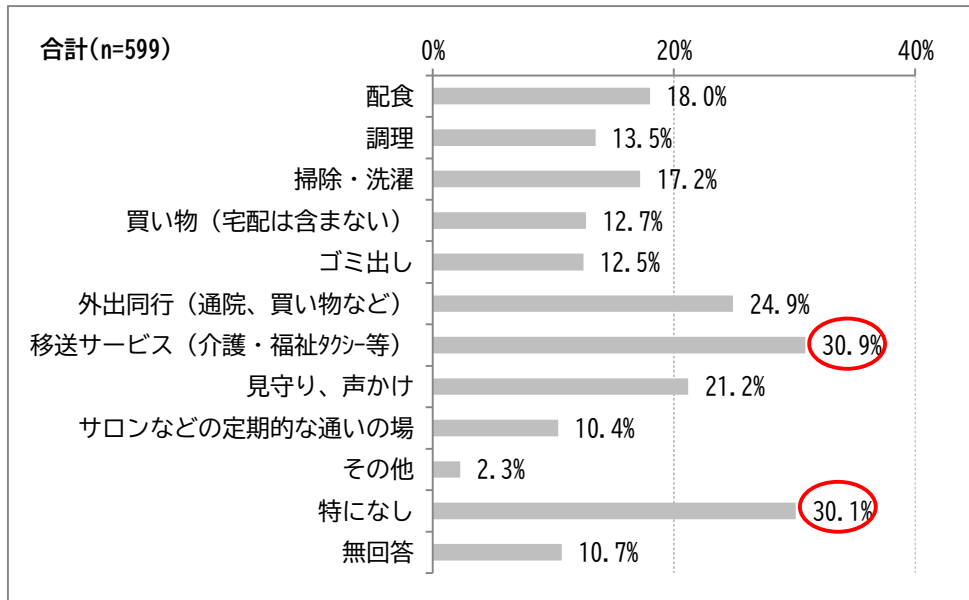


【在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

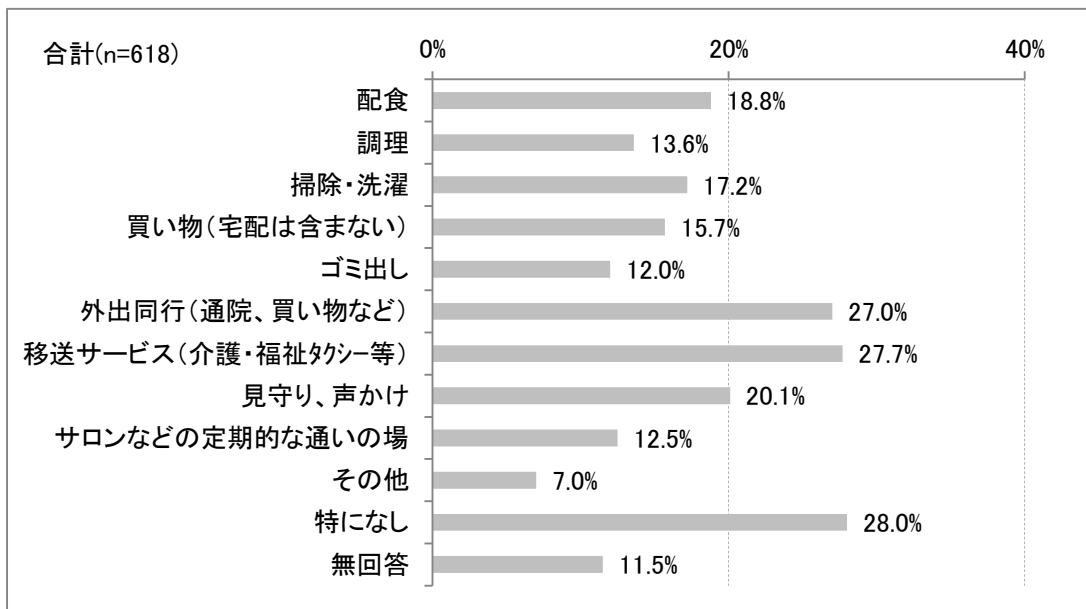
- 「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が最も高く 30.9%となっている一方、「特になし」も 30.1%と高い

前回と比較すると、「特になし」の割合がやや減少（2.1ポイント）しています。

図表3-2 在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



前回調査



(3) 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

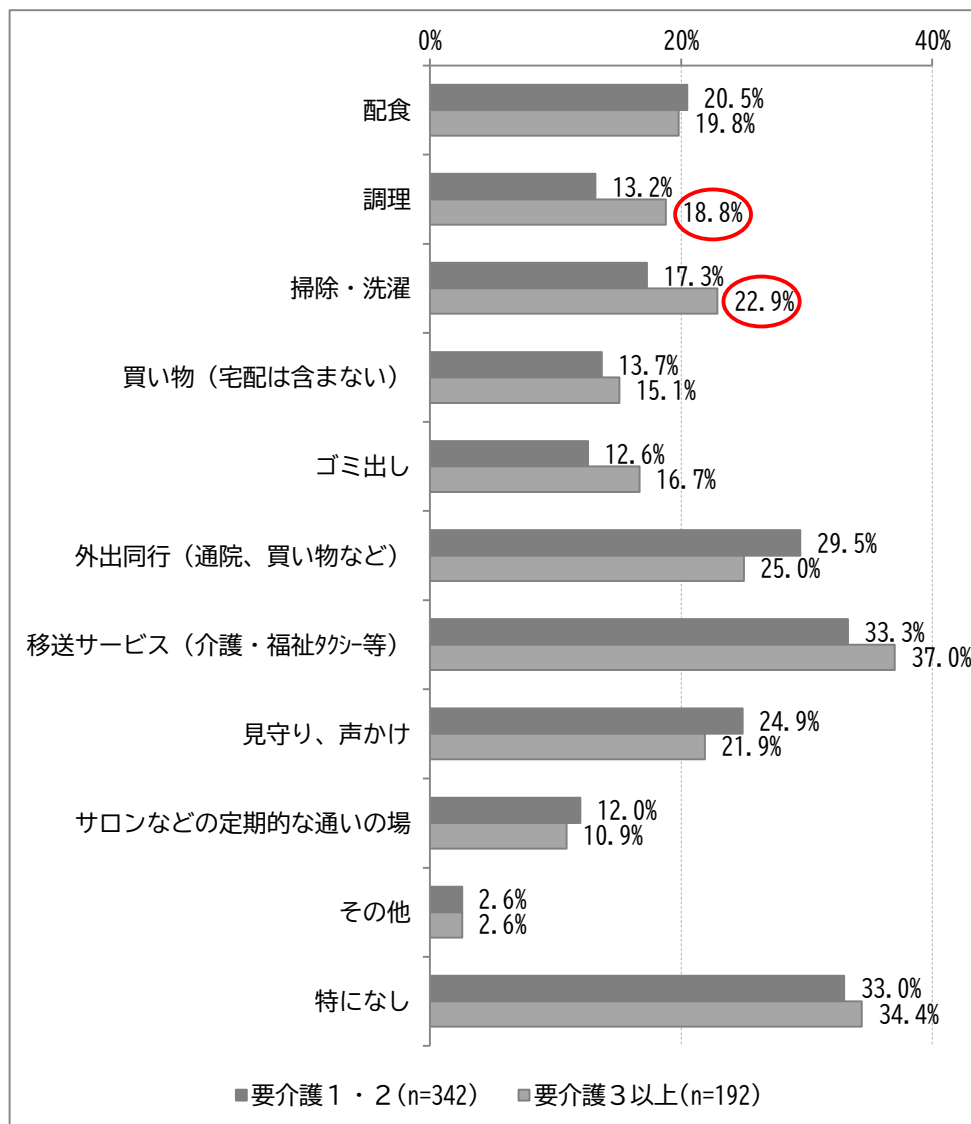
【要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

- 要介護度によって必要と感じる支援・サービスに差がある。要介護1・2で低いが、要介護3以上で高いものは「調理」、「掃除・洗濯」

「要介護1・2」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が33.0%、「外出同行（通院、買い物など）」が29.5%となっています。

「要介護3以上」では「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が37.0%ともっとも割合が高く、次いで「特になし」が34.4%、「外出同行（通院、買い物など）」が25.0%となっています。

図表3-9 要介護度別・在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

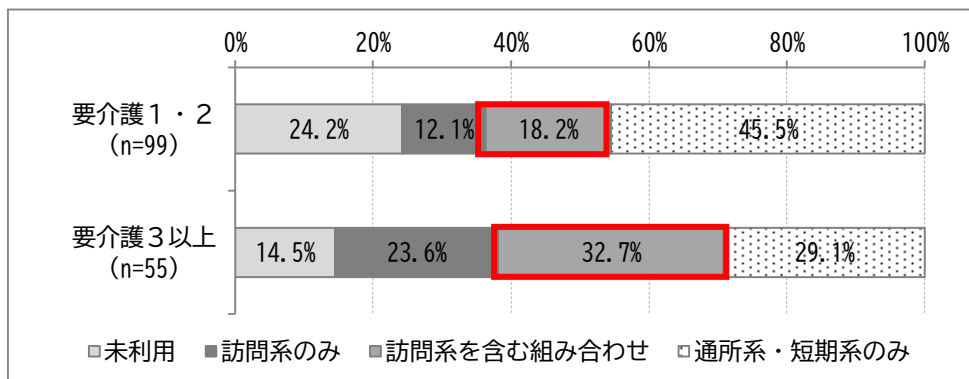


(4) 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

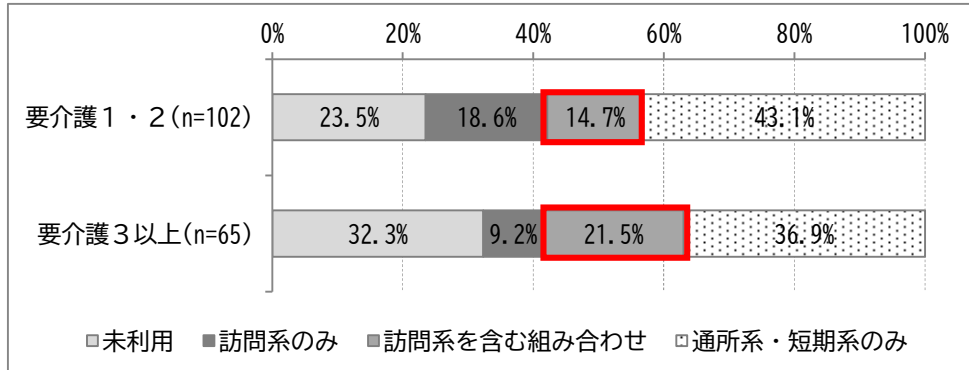
【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

- すべての世帯において、要介護度の重度化に伴い、「訪問系を含む組み合わせ」が増加
- 夫婦のみの世帯の要支援3以上は「未利用」が32.3%と、他の世帯や要介護度と比較して高い

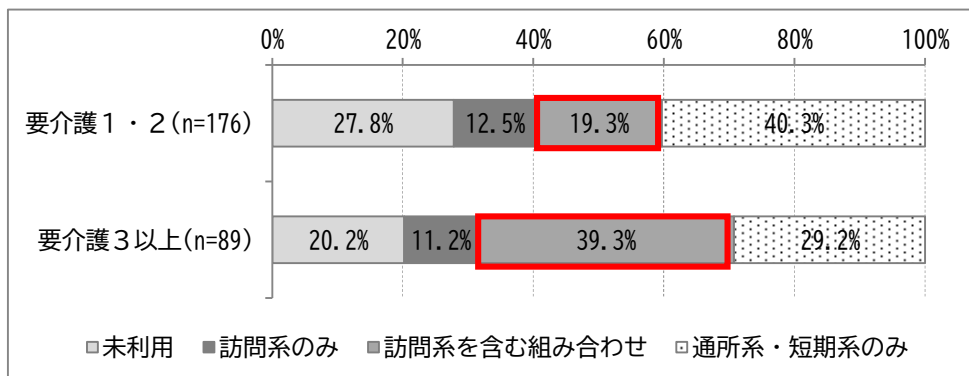
図表4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（単身世帯）



図表4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



図表4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ

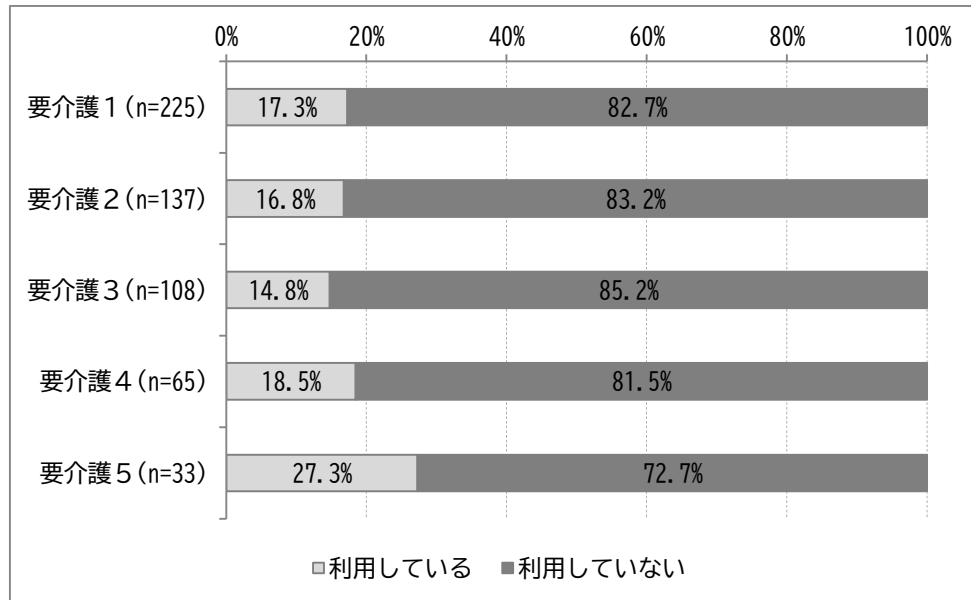


(5) 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

【要介護度別・訪問診療の利用割合】

- 「利用している」は要介護5を除き、大きな差はみられない

図表5-6 要介護度別・訪問診療の利用割合

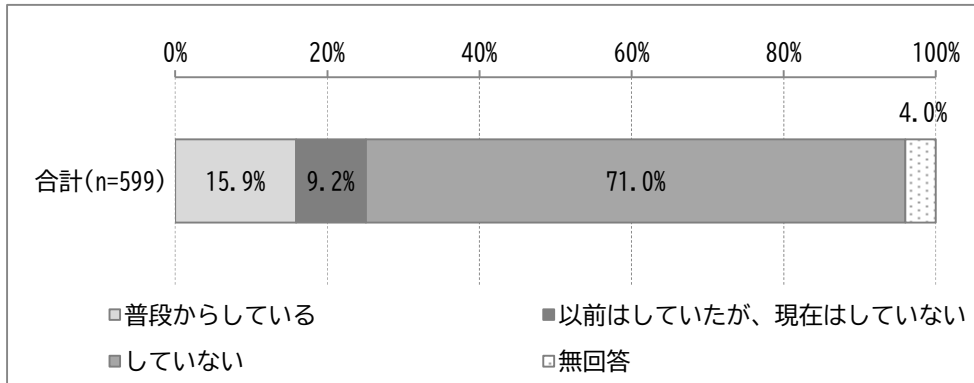


(6) 独自設問

【人生会議や人生の最期（看取り）について話をしているか】

- 「していない」が最も高く、71.0%となっている

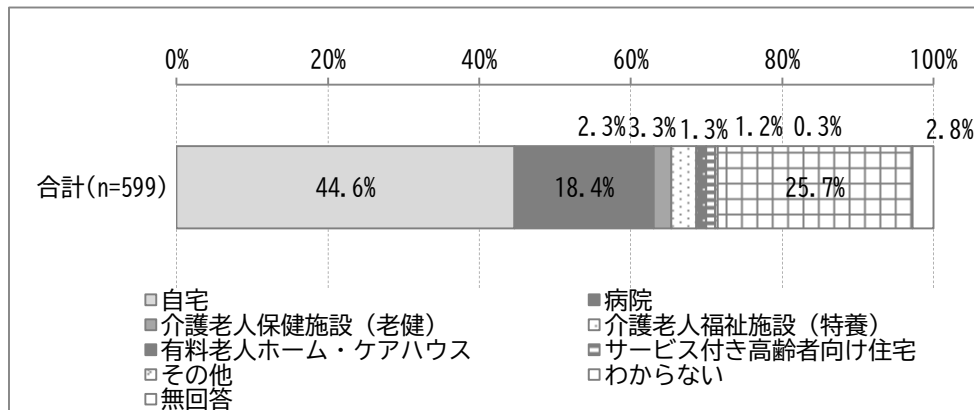
図表7-4 人生会議や人生の最期（看取り）の話



【人生の最期（看取り）をどこで迎えたいか】

- 「自宅」の割合が最も高く 44.6%となっている

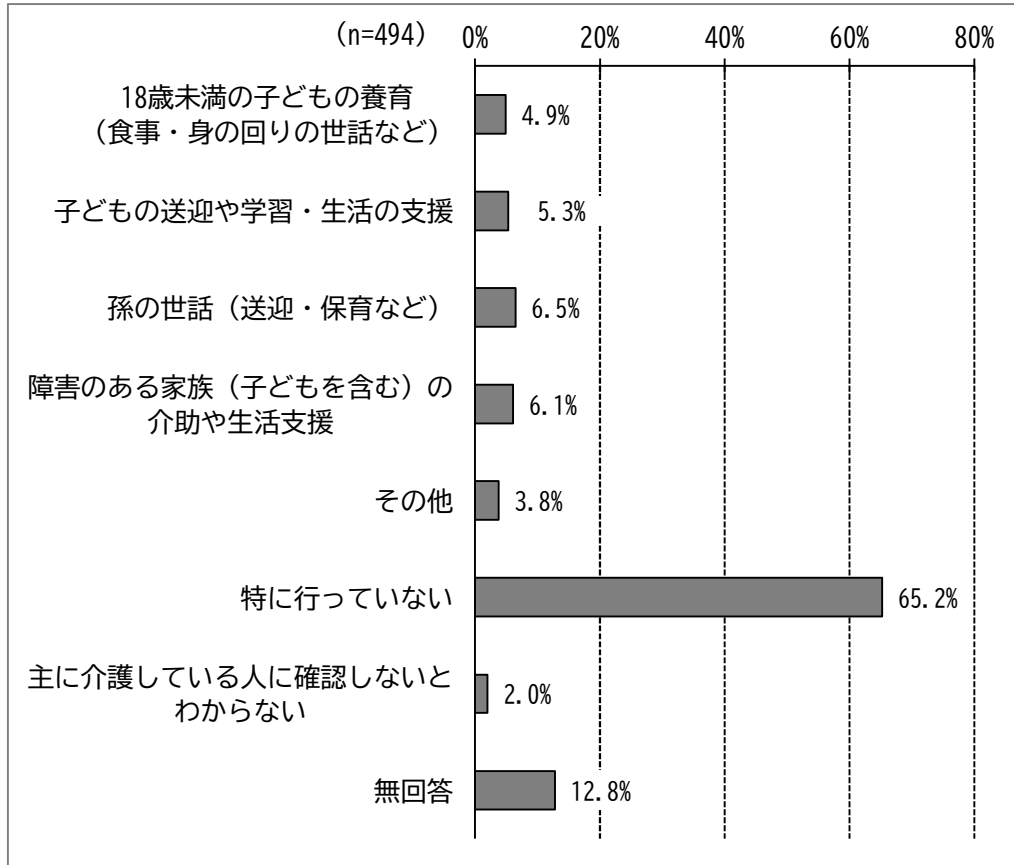
図表7-5 人生の最期（看取り）を迎えたい場所



【高齢者の介護のほかに、子どもや障害のある人のケアや世話をしているか】

- 「特に行っていない」の割合が最も高く 65.2%となっている一方、ケアや世話をしている人も一定数存在する

図表 7-8 子どもや障害のある人のケアや世話



【高齢者の介護とその他のケアや世話を両立する中で、特に負担や不安を感じる点】

- 「心身の疲労（休養や自分の時間が取れない）」の割合が最も高く 65.2%となっている

図表7-9 負担や不安を感じる点

